

●この説明書は、必ず施工される方にお渡しください。

■取付けられる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者が中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

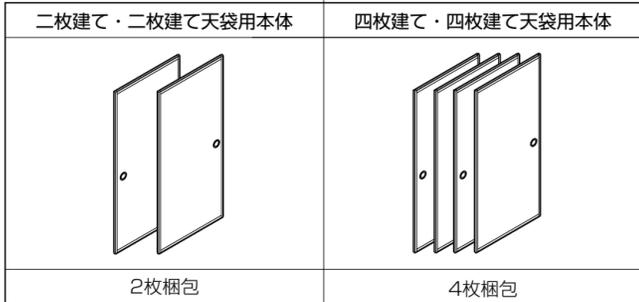
▲注意

●鴨居と引戸本体は、必ず5mm以上かかるようにしてください。かかりが小さいと開閉中に本体が脱落し、ケガをするおそれがあります。

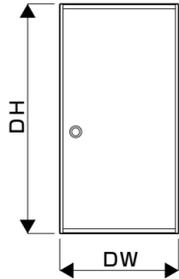
■取付け上のお願い

- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、施工前にお買求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)
- 本製品の運搬・加工の際は、キズ付けないよう丁寧に取扱ってください。又、水・直射日光の当たる場所に開梱状態で置かないでください。(ソリ・ねじれの原因になります。)

■部品・部材の明細



■製品寸法



■在来用

呼称	DW	DH
二枚建て	1618	813
〃	1620	813
〃 (天袋)	1604	813
四枚建て	2518	637
〃	2520	637
〃 (天袋)	2504	637

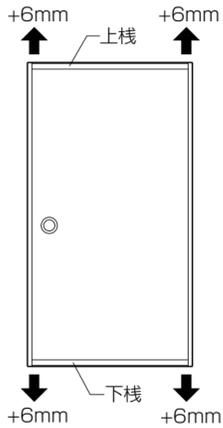
■2×4用

呼称	DW	DH
二枚建て	1618	812
〃	1620	812
四枚建て	2418	619
〃	2420	619

■本体の建付け調整

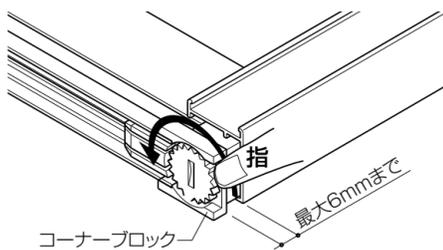
■上下の建付け調整

●本体の上下棧には、上下の建付け調整機能が付いています。本体の傾きを調整する場合は、下棧の左右のコーナブロックのダイヤルを指で左に回します。最大+6mmまで調整できます。本体の鴨居のかかりが少ない場合は、上棧の左右のコーナブロックのダイヤルを指で左に回します。最大+6mmまで調整できます。なお、回しづらい場合は、マイナスのドライバーで回してください。



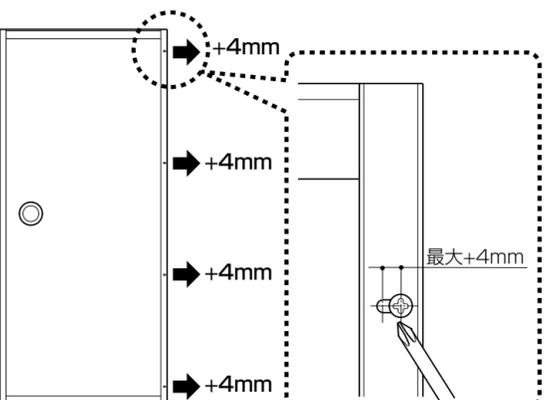
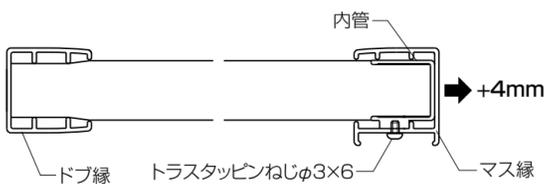
▲注意

●鴨居と引戸本体は、必ず5mm以上かかるようにしてください。かかりが小さいと開閉中に本体が脱落し、ケガをするおそれがあります。



■左右の建付け調整

●本体のマス縁には、左右の建付け調整機能が付いています。調整方法は調整ねじ(トラスタッピンねじφ3×6)をゆるめマス縁を外にズラします。最大+4mmまで調整できます。
●調整終了後は調整ねじを固定してください。



■襖紙(シート)の張り方・張替え方

■生地タイプ(K-2) 現地張りの場合

- 生地タイプ(K-2)の和襖の場合は、現地で襖紙を張ってください。
- ①マス縁の調整ねじを緩め、マス縁を外にずらし最大調整幅(DW+4mm)とします。
- ②マスキングテープをマス縁に張ってください。
- ③引手を手で引っ張って外します。固い場合は、図のように裏面から当て紙をして、マイナスドライバーで少しずつ持ち上げます。(図-1)
- ④新しい襖紙を張ります。
- 新しい襖紙を、上下左右共に襖より10mmほど大きく裁断します。(予備切断)
- ⑤本体の生地面側(クリーム色)に襖紙を澱粉糊(糊付き紙の場合は水)で付けます。
- 位置を確認して襖に張付けます。しわが入った所は、もう一度はがして張りなおしてください。次に押えハケか、乾いたタオルで中央から上下・左右へ空気を押出すように軽くこすってください。多少のしわやたるみは乾燥すれば直ります。
- ⑥襖縁に合わせて襖紙をカッターなどで切断します。(本切断)図に示すように襖縁の内側いっぱいまで襖紙を折返し、かね尺などを当て込み、その上でカッターで切断してください。その際、下地(クリーム色)を傷付けしないでください。傷が付くと縁がはずれて使用できなくなるおそれがあります。
- ⑦切り代をヘラなどで襖縁の内側に押し込んでください。(図-2)
- ⑧引手のところはカッターで丸く切抜き、取付けてください。(図-3)
- ⑨マス縁を内側に戻し、調整ねじを固定して陰干ししてください。
- ※現地張りした襖紙を張替える場合は、上から重ねて張ってください。

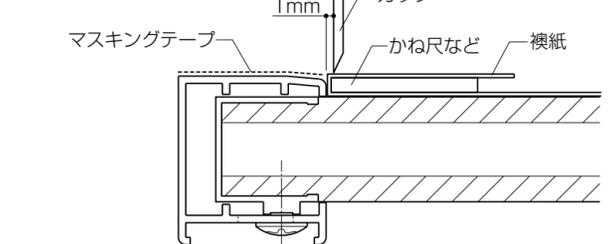
(図-1)



お願い

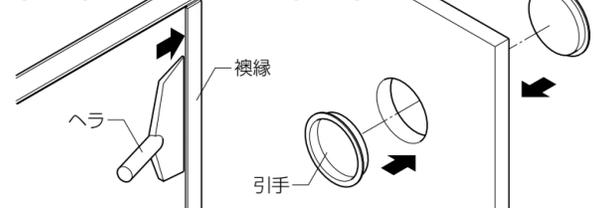
- 片面をクロス張りにしないでください。ソリが生じます。
- 両面生地タイプ(K-2)の場合は、両面共同じ襖紙を張ってください。

■生地タイプの場合



(図-2)

(図-3)

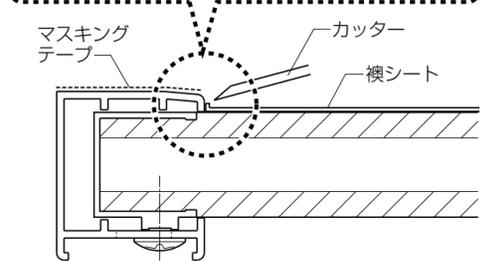


■既製襖タイプ(K-1、B-1・2、C-1・2)の場合

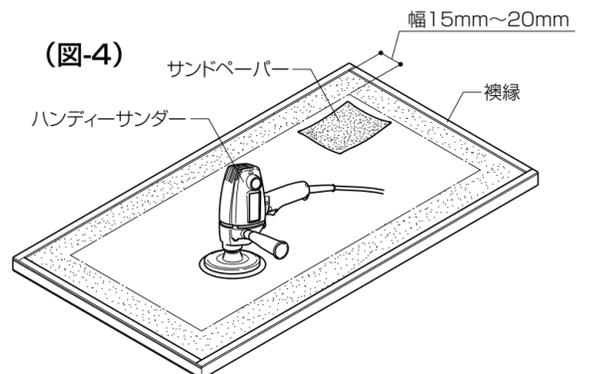
- 和襖は、襖シートを張替えることができます。
- 既製襖タイプは、襖シート表面のコーティング層をはくりし、新しい襖シートを上から重ねて張ります。
- ①襖縁を養生するため、マスキングテープを2枚重ねて張ってください。
- ②引手を引っ張って外します。固い場合は、図のように裏面から当て紙をして、マイナスドライバーで少しずつ持ち上げます。(図-1)
- ③糊の密着性を高めるため、襖シートのコーティング層と着色層をはくりします。(図-4)
- 襖縁の際からサンドペーパー(手作業)で、襖縁に傷を付けないようにして着色層まではくりします。(幅15mm~20mmで行ってください。)
- ハンディーサンダー(サンドペーパーP100又はP180位を取付け)で襖シート全体のはくりをします。
- はくりは着色層がなくなり、シート基材の紙が出てくるまで行います。襖基材のペーパーハニカム(ダンボール)まではくりしないでください。
- ④襖表面に穴があいた場合は、周囲をマスキングテープで養生し、パテ(レスリット/白色)で基材(ペーパーハニカム)内部まですき間なく充てんし、平らにしてください。
- ⑤新しい襖シートを張ります。
- 新しい襖シートを上下・左右共に襖より10mmほど大きく裁断します。
- 市販の澱粉糊を襖全体に塗布してください。(糊は「ルーアマイルド」(ヤヨイ化学)をおすすめします。)水との稀釈要領などについては説明書にしたがってください。
- 張りはじめに襖の柄が曲がらないようにしてください。又、張りはじめに襖シートがよれるとシートに負荷がかかり、はがれやすくなりますので慎重に行ってください。
- ヘラを使い、余分な空気・糊を外に出して襖シートのしわを取除いてください。
- 襖シートの密着をよくするため、全体をまんべんなく押えます。
- 全体が張り終わったら、襖縁の周囲の入隅分にヘラを使い襖シートを密着させ、余分なシートを入隅に合わせてすき間なくカッターで切断してください。
- ⑥養生のマスキングテープをはがし、引手を取付けます。引手のところはカッターで丸く切抜き、取付けてください。

■既製襖タイプの場合

●襖シートと襖縁にすき間が出ないように、多少立ち上りを残します。



(図-4)



お願い

- 片面をクロス張りにしないでください。ソリが生じます。